

事業所名

ほがらかファミリー菟野

支援プログラム

作成日

2024 年

12 月

20 日

法人（事業所）理念		『“子どもが元気な社会”をつくります』			
支援方針		遊びを通じて、人と関わる力を培います。 ・職員がきめ細かく関わります。 ・地域に密着した事業所として、地域の皆様と関わります。 ・家族同士で交流できるイベントを行います。			
営業時間		◆通常：9時 ～ 18時	◆長期休暇期間：8時半 ～ 17時半	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容					
本人 支 援	健康・生活	・手洗いや靴・靴下の着脱、排泄など、大人と一緒に自分の身の回りのことをする。職員は、本人が自分でやろうとする意欲が高まるような声掛けをし、難しい部分は最低限の手助けをする。 ・定期的に体を動かすことで、気持ちの発散や健康維持を図る。 ・クッキングや畑での療育を行い、自分たちで作った物をみんなで美味しく食べる時間を設ける。			
	運動・感覚	・色々な遊具、道具、素材を使い、自分の体を上手く扱ったり、戸外で伸び伸びと身体を動かして遊ぶなど、様々な姿勢や動きをする。 ・筋力、持久力、瞬発力、コントロールといった体力的な要素だけでなく、知力やコミュニケーションが必要となる運動遊びを楽しむ。 ・職員は、遊びに感覚統合の要素を取り入れたり、設定や環境の工夫をするなどし、バラエティーに富んだ遊びや活動ができるようにする。			
	認知・行動	・職員や友だちの模倣をしたり、ちょっとした手順のある遊びを楽しむ。 ・自分のアイデアを生かした遊びを形にし、自分で考えたことことが上手くいったという経験を積む。 ・職員は、本人が選んだ遊びから、変化を加えたり新しいやり方を提案するなどし、遊びや活動の種類が増えるよう働きかける。			
	言語 コミュニケーション	・話し言葉や文字や記号、ジェスチャーなど色々な表現方法で自分の思いを伝える。 ・複数療育の中で相手と相互的なやりとりをする。 ・職員は、色々な体験や経験を通して物事と言葉が結びつくよう働きかけ、言葉の力を高めていくようにする。			
	人間関係 社会性	・周りや遊びや気持ちを共有する時間を持ち、心地よい関わりを増やす。 ・ルール遊びや協同活動などを通して、人とつながる楽しさを味わったり、仲間意識を持つ。 ・職員は、発達段階に応じた関わりやサポート心掛け、本人が主体的に遊びや活動に参加する力を高めていくようにする。			
家族支援		・保護者の要望に応じ、またはこちらから意向をお尋ねして、事業所内相談時間を持つ。本人の自発性を大切にしながら、本人の思いと家族の思いの折り合いをつけるポイントについてお伝えする。 ・保護者に支援場面に参加・観察してもらい、子どもの特性を踏まえた関わり方等に関して相談援助をする。	移行支援		・本人の行動特性や事業所での支援内容等について、また学校での支援内容について、学校や就学先と共有する。 ・必要に応じて学校と連絡を取り訪問するなどして、日々の様子を情報共有する。様々な場面での具体的な関わり方など、お互いに伝えあう。 ・保護者の意向も確認しながら三者で連携を図る点に留意する。
地域支援・地域連携		・関係機関で役割分担を担うと共に、それぞれの機関で得られた情報を共有し、日常生活や支援に活用するための具体策を提案し合う。 ・みんなで子どもを育てるという思いを大切にしたい連携を心掛ける。	職員の質の向上		・毎月1回、作業療法士が療育に入り、その後「子どもとの関わり」や「保護者支援」等について事業所内研修を行う。また、その他にも幅広く事業所内研修を行っている。 ・「遊び」「個別支援計画作成」「防災」「子どもの発達」など、様々なテーマの外部研修に参加している。
主な行事等		・「子ども祭り」「川遊び」「芋ほり」「焼いも」「マラソン大会」「餅つき」「豆まき」など、季節感や伝統文化に因んだ行事を行っている。地域の人たちの協力を得ながら、親子で楽しんでもらうことを大切にしている。 ・「保護者交流会」「フォーラム」など、保護者同士の交流や、事業所の思いや取り組みを保護者に知ってもらえるようなイベントを行っている。			